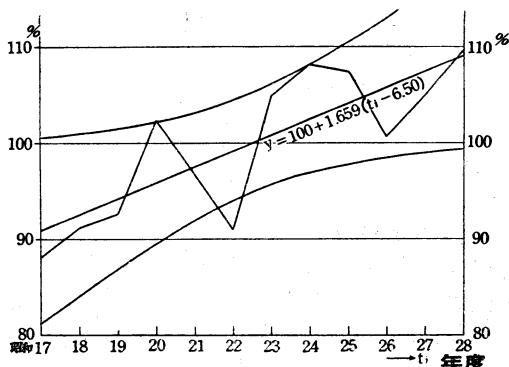


年 度	t_i	可能発電電力量	%
		$\times 10^8 \text{KWh}$	
昭和17年	1	34,029,950	88.1
18	2	35,231,800	91.2
19	3	35,747,028	92.6
20	4	39,493,422	102.3
21	5	37,284,850	96.6
22	6	35,086,406	90.9
23	7	40,518,165	104.9
24	8	41,758,219	108.1
25	9	41,462,985	107.4
26	10	38,903,688	100.7
27	11	40,530,682	105.0
28	12	42,403,949	109.8
累年平均	6.5	38,614,679	99.8



第1図 可能発電電力量の経年変化 (昭和17年～28年), 横軸は年度, 縦軸は百分率であらわした全国可能発電電力量

るか否かをも検定すると, $t=4.3$ となって, 危険率1%でも $b=0$ とすることは出来ない. さらに第2図には信頼度99%の信頼双曲線を示してある. この図によっても, 近年豊水がつつき, 水力発電が豊かになりつつある

長期傾向を明らかにすることができる.

第1図は堤敬一郎氏, 大久保好枝嬢の助力により, 第2図は小沢正氏との共著にもとずいたもので, ここに謝意を表したい.

参 考 文 献

- 1 S. Hayami. 1940: Hydrological Studies on the Yangtze River, China, I & V, Journal of Shanghai Science Institute, Section 1, 1,97~162 (1938) & 263~291
- 2 朝鮮総督府観測所編, 1917: 朝鮮古代観測記録調査報告中の和田雄治博士論文第3篇第1表(大正6年)
- 3 荒川秀俊, 1955: 気候変動論, 地人書館, 昭和30年
- 4 E. B. Kraus, 1954: Secular Changes in the Rainfall Regime of SE. Australia, Quart. J. R. met. Soc., 80, 591-601; 1955: Secular Changes of Tropical Rainfall Regimes, Quart. J. R. met. Soc., 81, 198-210
- 5 吉本秀幸 (通産省公益事業局需給課), 1954: 豊水群が来ているのではあるまいか? 水力供給力長期予想に関する懇談会提出資料 (昭和29年3月)
- 6 荒川秀俊, 小沢正, 1955: Return period の見地から見た可能豊水又は可能渇水, 水統計小委員会資料
- 7 高橋浩一郎 1955: 日本の降水量の長期変動について, 天気, 3, 12~14

書 評 「日本の海」 田口竜雄
古今書院発行 270円

この本を読んでいくと, 著者の努力がひしひしと身に感じられる. 非常に広範囲で文献を集め, それを分類し, ここに描かれた日本の海はすばらしい景観の中に古代の風が, 古代の匂いを感じられる.

「海は果てしもなく広く, 漂々として広がっていたから, いろいろなものが日本の沿岸に流れ寄った」.

著者はこういう書き出しで, 漂着物, 潮流, 漂流船, 赤潮, 海光, 蜃気楼, 竜巻, 遭難船, 海洋気象, 動植物, 拾得物, 気象高潮, 地震津浪, 船, 島, 舟幽霊, 常夜燈, 海底, 柱, 東極, 真水, 占候, 海坊主, 奇蹟と, その資料の出典は古今東西の数百種類に及んでいる.

大変な努力だったに違いない. お蔭で私達は, こんな不思議なことが, 珍らしいことがあったのかと, 日本民族の歴史とともに, 打ちよせる波の音を感じる.

これは気象学の本にあらず, 海洋学の本でもない. が, こうした本を読み, こうした教養を具えた学者こそわれわれの求めている学者ではあるまいかと思う. そうした意味で, この本はあらゆる自然科学者が座におき, 頭の疲労を解きほぐす本でもある.

この本の自序の中に,

「若くして逝ける児, 滋を偲びつつ, 海村 吟屋にて一」とある. 著者を知っている人も, 知らない人も, この本を読んで著者の姿をほうふつと見るであろう. 田口竜雄氏は現在伏木測候所長, 気象台切つての名筆家である. この本の価格が十倍であっても買いたい本である.

(藤原寛人)